



TITLE:

産業的流通に於ける營業貨幣の流通速度

AUTHOR(S):

中谷, 實

CITATION:

中谷, 實. 産業的流通に於ける營業貨幣の流通速度. 經濟論叢 1935, 41(2): 246-253

ISSUE DATE:

1935-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130618>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷一十四第

行發日一月八年十和昭

論叢

生産の構造

文學博士 高田保馬

寺院と課税

法學博士 神戸正雄

第三世界觀的人格典型

文學博士 米田庄太郎

時論

最近に於ける産業組合金融の動向

經濟學博士 八木芳之助

研究

フランス帝國經濟會議

經濟學士 松岡孝兒

産業的流通に於ける營業貨幣の流通速度

經濟學士 中谷實

マークン時代マリーカンの海運政策の典型

經濟學士 明石嚴三

商業生産説の諸性格

經濟學士 松井清

說苑

希臘人の「植民」觀

農學士 若木禮

中小經營の彈力性に就いて

經濟學士 岡倉伯士

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

（禁轉載）

産業的流通に於ける營業貨幣の流通速度

中 谷 實

一、序 言

貨幣經濟の社會に於ては總ゆる經濟活動は貨幣を通じて行はれ、貨幣は流通過程に於て初めてよく其の機能を営み得るものである。即ち貨幣は他財と異りて幾度か取引の決済に用ひらるるものにして、一定量の貨幣は遙かに多額の取引を決済するものである。従つて一定量の貨幣と、一定期間に此れによりて決済される取引總額との割合が重要となるものにして、茲に貨幣の流通速度が問題とせられるに至る。

貨幣の流通速度と言ふ概念には學者間に意見の一致が存せず¹⁾、往時には一定の貨幣が手より手へ渡り行く平均度数と言ふが如き素朴なる考方が行はれたのであるが、近時の通説としては、一定期間に一定量の貨幣が幾許の取引を決済するかと言ふ事が問題とせられ、従つて貨幣の流通速度は、平均的に貨幣が幾許だけ一人の手許に滞留するか換言すれば貨幣の滞留期間によりて測定せられる²⁾。即ち往時には *Bewegungstheorie* が行はれたのであるが現今では *Kassenhaltungstheorie* が支配的地位を占めて居るのである³⁾。斯くて貨幣の滞留期間が短き程貨幣の流通速度は大となる

1) 高田保馬；經濟學新講 第三卷 281頁

2) 前掲書；282頁, H. Neisser; Der Tauschwert des Gelds, S. 15

3) M. W. Holtrop; Die Umlaufgeschwindigkeit des Geldes übersetzt von E. Schiff (Beiträge zur Geldtheorie) S. 128

可く、一定期間に一定量の貨幣が決済し得る取引額はより大となり得るものにして、之即ち貨幣の流通速度の増加を以て貨幣數量の増加と見る見解の存し得る所以である。

右の如く、貨幣流通速度の増加する事によりて一定額の取引を決済するに必要な貨幣量は節約せられ得るのであるが、更に金融機構の發達によりて此の貨幣の流通速度が著しく増大せしめられ得るものである。即ち之れを各經濟單位に就て見ても、各經濟單位が貨幣を必要とする時には何時にても金融機構を通じて之れを調達し得る事となれば、彼等が一定の取引額を決済する爲めに平常保有す可き貨幣額は著しく小額となるが故である。而も社會の貨幣流通の中で金融機構を通じて行はるる貨幣流通は、他の貨幣流通即ち財の生産より加工分配を経て消費に至る過程に於ける貨幣流通とは著しく其の趣きを異にするものにして、貨幣の流通速度も亦其の流通過程の異なるに従ひ、異りたる事情によりて支配せられるのである。

私は嘗てケインズに倣ひ、彼の所謂營業貨幣 Business-deposits の流通速度を我國に就いて算定する爲に當座預金の一ヶ年回轉高を計算したのである。然し乍ら斯かる當座預金の回轉高は、銀行の信用創造による影響を多分に含めると共に、投機業者の營業貨幣の如く財の生産分配には直接の關係なく、ケインズの所謂金融的流通に屬するものをも包含してゐるのである。而も金融機構を通じて行はるる貨幣流通即ち所謂金融的流通が他の貨幣流通に比して著しく其の趣を異にする以上は、かゝる金融的影響を全然切離して各種産業における營業貨幣の流通速度を研究する事

4) 山崎覺次郎；若干の貨幣問題 231頁
5) 拙著；預金通貨の研究 193頁—200頁

が決して無意義に非ざるものと信じられるのである。故に本稿に於ては、先づ社會に本質上相異なる二種の貨幣流通が存する所以を明かにし、次に其の一方に屬す可き財の生産加工及び分配等を用ひらるる營業貨幣の流通速度が如何なる要素によりて變動せしめらるるかを述べると共に、二種の貨幣流通を切離して考察する事の必要なる所以を説明し、而して最後に金融的影響を除外したる場合に我國における營業貨幣の流通速度が各種産業部門間に於て如何に異りたる變化を示す可きかを推測す可き一の手懸りを求めたいのである。

二、貨幣の産業的流通と金融的流通

貨幣は經濟の各局面に於て種々の形式を執りて流通するものであるが、之れを大別すれば二種の貨幣流通に分つ事が出来る。其の一は貨幣が財貨又は勞務と交換に移轉される事より生ずる對價的流通であり、其の二は一時的には貨幣の一方的移轉と見らる可き貨幣流通である。前者は賣買の形式をとりて現はる可く、後者は貸借の形式換言せば現在貨幣と將來貨幣との交換と言ふ形式を執つて現はれる。⁶⁾

先づ貨幣の對價的流通即ち賣買の形式をとる貨幣流通に就いて述べるに、此れは財の原始的生産より加工分配交換の過程を経て消費に至る迄の間に於て、總ゆる財貨勞務の移轉と反對の方向に流通する貨幣流通にして、ケインズの所謂産業的流通 the industrial circulation⁷⁾ に當るもので

6) 尙貨幣の一方的移轉の中には贈與及び租税公課の上納の場合におけるが如き貨幣流通が存するが、貨幣經濟の本質的な進行を考察する場合には一應之れを捨象して差支なきが故に此處では之れを取扱はない。

7) J. M. Keynes; A Treatise on Money vol. I. p. 243. Wagemann の所謂 der Stromkreis des Einkommens も之れに當る (Wagemann; Konjunkturlehre, S. 42)

ある。即ち經濟に於ける全生産活動は、一方には社會的生産物を供給すると共に他方には生産に寄與せし諸要素に貨幣所得を與へ、各生産寄與者は此の貨幣所得を以て供給されたる社會的生産物を獲得する。而して獲得されたる社會的生産物が消費せられると同時に其の價格として支拂はれたる貨幣が再び企業に還流するものである。

次に貨幣の一方的移轉と見らる可き貸借の形式をとる貨幣流通は、今日の社會に於ては一般に金融機構を通じて行はるるものである。即ち貨幣所得者は貨幣所得の一部分を暫時銀行其他の金融機關に預入れ、後日必要なる時に其の拂戻を受ける。他方銀行其他の金融機關は、貨幣所得者より受入れたる貨幣又は自己の創造せし貨幣(信用)を企業に投資し、企業は此れを其の經營に用ひたる後に金融機關に返濟するものである。又貨幣所得者は時として其の所得として受入れたる貨幣の一部分を以て有價證券を購入し、後日證券の償還又は其の賣却によりて投資せし貨幣を回收する事がある。右の如く、貨幣所得者が貨幣所得の一部分を銀行其他の金融機關に預入れる場合にも或は又此れを以て有價證券を購入する場合にも、共に貨幣の一方的移轉と認められ得るものにして、ケインズは之れを金融的流通 the financial circulation と呼んでゐる。而も此處に所謂貨幣の金融的流通は、其れ自體は財の生産分配及び供給等に直接の關係を有せずして、前述の産業的流通と大いに異なるものである。

然らば産業的流通に於ては如何なる貨幣が流通するか。之れを各種貨幣の營む所の職能より分

8) Keynes; ibid. 森川太郎; 金融經濟總論 16頁

9) Keynes; ibid. Wagemann の所謂 Die Bewegung des Geldkapitals も之れに當る (Wagemann; a. a. O. S. 43)

てば二種とする事が出来る。即ち其の一は労働者使用人資本家及び地主等が彼等の所得を受取り、之を以て社會的生産物を購入し又は貯蓄する場合に役立つものにして、此等の爲めに用ひられる貨幣を所得貨幣 *Income-deposits*, *Einkommensgeld* ¹⁰⁾ と言ふ。又他の一つは、製造家商人等が原料の生産より加工及び卸賣小賣に至る過程に於て諸種の支拂に利用し、更に固定資本の更新に用ふるものにして、之れが爲めの貨幣が即ち茲に問題とせる營業貨幣 *Business-deposits*, *Geschäfts-geld* ¹¹⁾ である。面して茲に注意す可きは、斯かる貨幣の區別は専ら其の營む所の職能に基くものにして、同一の貨幣が同時に所得貨幣ともなれば又營業貨幣ともなり得るのである。例へば、製造家が原料品の加工に對して勞賃を支拂ふ場合の如き、製造家より見れば營業貨幣なるも労働者より見れば所得貨幣なのである。¹⁴⁾

然らば産業的流通における營業貨幣の流通速度は何によりて左右せられるか、節を改めて述ぶる事とする。

三、營業貨幣の流通速度

已に述べしが如く、貨幣の流通速度は、貨幣が一時的に流通を休止せる期間の長短、換言すれば各個經濟の許に滞留せる貨幣量の流通貨幣量に對する相對的大さによつて支配せられるのであるが、此の原則は産業的流通に於ける營業貨幣の流通速度に對しても其の儘適用せられ得るので

10) Keynes; *ibid.* vol. 1, p. 35. 11) H. Neisser; *Umlaufgeschwindigkeit der Bankdepositen* (*Handwörterbuch d. Bankwesens*, S. 568)

12) Keynes; *ibid.* vol. 1, p. 35. p. 245 13) Neisser: *a. a. O.*

14) Keynes; *ibid.* p. 46, pp. 244-245

ある。而して營業貨幣の流通に於て此の滯留量を支配する諸事情に關しては、嘗て本誌に於て詳論せし所なれば、¹⁵⁾此處に再びこれを繰返す事を避けたいが、今産業的流通に於ける營業貨幣の流通速度に關して其の要領を述べれば次の如くなる。即ち各營業主體の許における營業貨幣の保有量は、先づ支拂時期に關する社會的慣習と、營業貨幣を保有する事に伴ふ便宜と犠牲との考慮とによりて支配せられ、次に各種企業の資本集約度如何と、原料生産より完成品の供給に至る垂直的生産段階に於ける企業の分散集中の程度如何とによりて定まるのである。蓋し、先づ支拂が一定の時期に集中せられずして不規則的に行はれるか、又は季節的商品の流通に於けるが如く支拂期日間の距離が長き場合には、各營業主體の許に於ける營業貨幣の保有高は大なるを要す可く、同時に各營業主體が多少の犠牲を拂つても多額の營業貨幣を保有する事により、大なる便宜を感じるならば、營業貨幣の保有量が自づから大となる。又各企業の資本集約度が大となれば固定資本の更新の爲めに長期に亘つて多額の營業貨幣が準備せらるるを要す可く、更に垂直的な生産各段階が多數の獨立せる企業によりて營まるる場合には中間取引の増加に伴ひて營業貨幣の保有量も亦増大せねばならぬのである。

然るに一般に營業貨幣の流通速度を論ずるに際しては、前掲四要素の中で前の二者のみを論じて後の二者は之れを否定するか又は之れに言及せざる場合が多い。例へばナイサーは其の著「貨幣の交換價值」Der Tauschwert des Geldes に於て、經營資金 Betriebsfond の流通速度を問題に

15) 拙稿；貨幣需要と貨幣の流通速度(經濟論叢 第38卷 第1號)

してゐるが、斯かる營業資金の保有量は勞賃俸給及び利子の支拂時期の長短にのみ依存し、生産の垂直的段階における集中分散には影響せられないと言つてゐる。¹⁶⁾又ケインズの如きも、營業貨幣の流通速度を支配する要素として、支拂期日に關する社會的慣習如何と、營業貨幣を保有する事に伴ふ便宜と犠牲との考慮とを擧げてゐるが、¹⁷⁾後の二要素に關しては殆んど言及し居らざる有様である。¹⁸⁾

然らば何故に後の二要素即ち資本集約度の大なる企業に於て固定資本の更新の爲めに保有さる可き營業貨幣量や、垂直的生產段階の分散の結果各段階間の取引に用ふ可き營業貨幣の保有量が無視せられるか。惟ふに此等の要素を無視する人々は、貨幣の産業的流通と金融的流通とを切離して考察する事をなさず、現實の營業貨幣保有量にのみ着眼するが故である。即ち固定資本の更新の爲めの營業貨幣とか生産の垂直的段階の間に用ひらる可き營業貨幣の如きは、之れを必要に應じて金融機構より調達し得るものと見るが故である。

斯かる研究方法は、營業貨幣の現實の流通速度を問題とする限り、最も適當なる方法たるに相違ないが、他方に於て私は、金融的流通よりの影響を全然切離して産業的流通のみを假定し、其處における營業貨幣の流通速度を考察する事も亦全然無意義ならざるものと信するのである。蓋し産業的流通と金融的流通とは其の性質を異にするのみならず、斯かる方法を採る事によりてのみ、金融機構の存在従つて貨幣の金融的流通が貨幣の産業的流通特に營業貨幣の流通速度に對し

16) H. Neisser; Der Tauschwert des Geldes, S. 20 但し彼の所謂 Kassenreserven が企業の垂直的分散集中によりて大いに影響される事は彼自身認むる所である。

17) Keynes; *ibid.* vol. 1. p. 245, vol. 2. p. 25. p. 44.

18) *ibid.* vol. 1. p. 245 參照

て如何に大なる影響を及ぼし得るかを知り得るが故である。例へばホルトロップは、貨幣の流通速度の決定要素として企業の資金利用度 *die Intensität der Vermögensausnutzung* を挙げ、此れに變動を及ぼす可き諸種の要素を研究してゐるのであるが、彼は先づ、企業が自己資本或は長期信用のみを以て經營し銀行其の他の金融機構より短期の信用を享受し得ざる場合に就てのみ考察し、然る後に諸種の信用が資金の利用度に如何に影響するかと言ふ事を論じてゐる。¹⁹⁾ 又ナイサーも、後に執筆せる「銀行預金の流通速度」 *Umlaufgeschwindigkeit der Bankdepositen* に於ては、營業貨幣の流通速度が企業の資本集約度如何及び生産の垂直的段階に於ける分散集中によりて大いに影響せられる事を明言してゐるのである。²⁰⁾ 即ち兩者共、金融的流通を全然除外して産業的流通における營業貨幣の流通速度のみに着眼する事の有意義なるを認めるが故である。

故に私は次節に於て、我國に於ける各種産業部門に就いて、金融的流通よりの影響を除外した場合に營業貨幣の流通速度が如何に異れる變動を示せるかを尋ね、以て何れの産業部門が最も多く金融機構に依存せるかを知らないのである。

19) Holtrop ; a. a. O. 2tes Hauptstück SS. 133-163, 特に SS.136-137

20) Neisser ; Umlaufgeschwindigkeit der Bankdepositen, a. a. O.